



今、ここにある希望

金井 秀行

宇宙人には言葉が通じない！

先日のNHK ラジオ「こども科学電話相談」で次のようなやりとりがありました。

問(Q)「宇宙人は、人類や動物の言葉がわかるのでしょうか。」

回答者は、男性 M1、M2 両氏。女性 N 氏の 3 人でした。

M1「あなたは宇宙人っていると思う？」

Q「はい、いると思います。」

M1「そうかあ。僕もいると思っています。まず、身近なところから考えてみましょう。日本の中でも、北に住む人は南の人の方言がわからないと言われます。その逆も言えます。同じ国の中でも、離れていると言葉が簡単には通じない。これがフランスとかハンガリーとか、外国の言葉になると、もっとわからない。すると、地球の言葉と他の星の言葉ではもっともっと通じない。ですから、わからないんじゃないか、というのが僕の意見です。」

しかし、M1 氏はここで打ち切りませんでした。「せっかくだから、M2 先生にも聞いてみましょう。」

学ばばわかりあえると思う

M2「私はちょっと違う意見です。いきなりフランス語を聞かされてもわからないけど、時間をかけてゆっくり学んでいけば、話したり聞いたり最後には書くことだってできるようになります。だから時間をかけて、お互いにそういう努力をすればわかりあえると思います。」

賢いことに、彼は、さらに N 氏に話を振ったのです。

N「わかるということをして「理解する」こと

から少しひろげて「共感する」ことと考えてみましょう。たとえば音楽は、お互いに言葉がわからなくても世界中に感動を与えます。だから音楽のように互いに共感できる何かを一心に探していけば、いつかは、わかる、にいきつくんじゃないかと思います。」

集団の力がぶつかりあって

聞き終えて、これは集団のもつ「力」とか「価値」をリスナーに問いかける展開だなと、思いました。一人が問い、一人が答える形ではこうはいきません。教師集団があり、子ども集団があって、しかも集団同士のぶつかりあいがあって、初めてより深い理解に到達できるということをまざまざと感じさせるひとときでした。これは「心」や「人間性」の理解にも通じる問題だなと思いました。

バラバラにされてきたけれど

私たちの「今」をみてみれば、権力者の旧態依然たる「分断して支配する」に攻めたてられる一方ではないかと思えます。戦後七十年、私たちはどんどんバラバラにされてきている。しかし、確かに現代は危機だけですが、真っ黒に塗りつぶされてしまったわけではありません。この放送を聞きながら、「今、ここにある希望」という言葉を反芻していました。

